ICOM

簡易取扱説明書

車載型デジタルトランシーバー

IC-DPR110



この無線機をご使用の際には、総務省総合通信局への無線局の登録申請が必要です。必ず登録申請をして、電子登録状が発行されてから、または書面の登録状(登録事項証明書)が手元に届いてからご使用ください。
無線局の登録申請手続きをしないで運用されますと、不法無線局となり、1年以下の拘禁刑又は100万円以下の罰金に処せられることがありますのでご注意ください。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた登録局対応の車載型デジタルトランシーバーです。

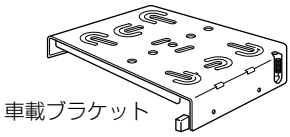
ご使用の前に、取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分に発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本製品の特長

◎IP54★1の性能に対応できるように設計されています。
◎デジタル無線機の特長として、高音質で通話ができます。
◎サブチャンネルPTT機能搭載により、最大3チャンネル間で送受信ができます。
◎チャンネル番号音声案内機能を使用すると、選択した通話チャンネル番号を音声で読み上げます。
◎Bluetooth機能搭載により、Bluetoothヘッドセットを使用できます。
◎ポケットビープメロディー機能を使用すると、ビープ音の代わりとして、メロディーで通知できます。
◎あらかじめ設定した複数のチャンネルを巡回受信できるメモリーチャンネルスキャン機能を装備しています。
◎卓上電源装置(別売品：PS-230A)と組み合わせることで、屋内のAC電源を使用できます。
◎個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3R」、「3T」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換★2があります。

★1 「IP表記」(P.6)をご覧ください。
★2 AMBE+2™方式を採用している機種に対応しています。

付属品

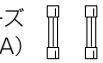

車載ブラケット


取り付けネジ一式
（車載ブラケット用）


圧着端子
（DC電源ケーブル用）


DC電源ケーブル


マイクハンガー


予備ヒューズ
（125V/5A）

□ 簡易取扱説明書（本書）
□ 取付ガイド
□ 保証書

※マイクロホンは、同梱されていません。
防水スピーカーマイクロホン（HM-254）、コマンドマイク（HM-253）などの別売品をご用意していますので、必要に応じてお買い求めください。
※別売品については、弊社ホームページ https://www.icom.co.jp/ をご覧ください。

取扱説明書の構成

本製品の取扱説明書は、本製品に付属の「簡易取扱説明書」、「取付ガイド」と、弊社ホームページに掲載の「取扱説明書」（PDFファイル）で構成されています。

簡易取扱説明書（本書）

はじめて本製品をお使いになる前に、知っておいていただきたい安全上のご注意や基本的な操作方法などについて記載しています。

取付ガイド（別紙）

本製品の設置と接続について説明しています。

取扱説明書（PDF）

各種機能の詳細な使用方法、別売品などについて記載しています。

下記URL、またはQRコードから弊社ホームページ（サポート→法人のお客様（または、個人のお客様）→取扱説明書）にアクセスすると、取扱説明書を検索できます。

アイコム株式会社　サポート情報　https://www.icom.co.jp/support/

はじめに

電波法上のご注意

◎無線局の運用に当たっては、電波利用料を納付する必要があります。(納入告知書により、納付期限内に納付)

◎登録局の有効期間は、登録日から数えて5年間です。
再登録の申請は、有効期間満了の3ヵ月前から1ヵ月前のあいだに手続きをしてください。

◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
分解や改造をしないでください。

◎本製品は、アンテナを含めて技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
そのため、ご使用いただけるアンテナは、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けたものに限定されます。同梱の「アンテナについて」を参考にしてください。
技術基準適合証明(工事設計認証)を受けていないアンテナを使用すると、電波法違反で罰せられる場合がありますので、ご注意ください。

◎他局の通信を妨害することや通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。

◎本製品は、日本国内における陸上、および日本周辺海域で運用する無線機です。
CH01～CH14、呼出CH(CH15)、CH16～CH82は上空での運用はできませんのでご注意ください。
上空で受信する場合は、CH S01～CH S15を使用してください。
無線局登録状の範囲を超えた運用は、1年以下の拘禁刑又は100万円以下の罰金に処せられることがありますのでご注意ください。

対応チャンネル

陸上・海上用チャンネル：CH01～CH14、CH16～CH82★1
呼出用チャンネル　　：呼出CH(CH15)★2
上空用チャンネル　　：CH S01～CH S15★3

★1 CH26～CH30とCH71～CH82、CH S11～CH S15はデータ推奨チャンネルです。

★2 一時的な呼び出しをするときに使用します。(P.16)
多くの局が呼出用チャンネルを使用しますので、呼び出し後の通話は、空いている陸上・海上用チャンネルに切り替えてから通話をつづけてください。
※通話相手のデジタル簡易無線機によっては、呼出CHを選択する相手と通話できます。

★3 上空用チャンネルでは送信できません。
出荷時、上空用チャンネルの使用は、「OFF」(P.24)に設定されています。

電波干渉についてのご注意

Bluetoothの通信では2.4GHz帯の電波を使用するため、次のことがらに注意してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

◎ この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことをご確認ください。

◎ 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、使用場所を変更するか、Bluetoothのご使用をお控えください。

◎ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンター(P.33)へお問い合わせください。

2.4GHz現品表示記号の意味

「2.4」: 2.4GHz帯を使用する無線設備

「FH」: FHSS方式

「1」: 想定干渉距離が10m以下

「▬▬」: 全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避不可



電磁波ノイズ

以下に示すようなインバーター回路内蔵の電気製品、および電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

インバーター回路内蔵のおもな電子機器

◎LED照明器具　◎電磁調理器　◎給湯器

◎自動車に搭載された電子機器　◎太陽光発電装置

運転時のご注意

◎ 安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。

◎ 無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に停車させてください。

◎ 安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で運転しないでください。
一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。

はじめに

防塵/防水性能

マイクロホンを無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。
次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- 雨の中や水滴が付着した状態、またはぬれた手でマイクロホンや外部スピーカーを取り付けたり、はずしたりしたとき
- コマンドマイク(HM-253)、または防水スピーカーマイクロホン(HM-254)が接続されていない、または正しく接続されていない
- 落としたりして、強い衝撃が加わったとき
- 本製品を分解、または改造したとき
- 水や湯を水道の蛇口から直接当てたとき
- 水や海水につけたとき
- −20℃～+60℃以外の環境で使用したとき

IP表記

製品の防塵/防水性能を表すための表記です。
IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。
また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字部分を「X」で表記します。
【本書で記載する保護の程度について】
IP5X(防塵形)　：試験用粉塵を1m^{3}あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として動作すること
IPX4(防まつ形)：いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

取り扱い上のご注意

◎直射日光の当たる場所に設置したり、長時間放置したりしないでください。
移動局として車内に設置する場合、炎天下では、車内の温度が極端に上昇し、本製品に悪影響を与えます。
また、真冬は、ある程度車内の温度を上げてからご使用ください。
◎車載運用では、バッテリー保護のためにも、1日の使用が終わったときは、必ず本製品の電源を切ってください。
◎磁気カードをマイクロホンやスピーカーに近づけないでください。磁気カードの内容が消去されることがあります。

音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVSI社の開発したAMBE (Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form. U.S. Patent No. #8,359,197.

ユーザー登録

https://www.icom.co.jp/ にアクセスしていただき、ユーザー登録用フォーム(サポート→法人のお客様または、個人のお客様→ユーザー登録)にしたがって必要事項を入力してください。

登録商標/著作権

アイコム、ICOM、ICOMロゴ、ポケットビープ、コマンドマイクは、アイコム株式会社の登録商標です。
AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。
Bluetoothワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc.が所有権を有します。アイコム株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。
QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。
なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。
本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

もくじ

はじめに 2
本製品の特長 2
付属品 3
取扱説明書の構成 3
電波法上のご注意 4
対応チャンネル 4
電波干渉についてのご注意 5
2.4GHz現品表示記号の意味 5
電磁波ノイズ 5
運転時のご注意 5
防塵/防水性能 6
IP表記 6
取り扱い上のご注意 6
音声圧縮(符号化)方式について 7
ユーザー登録 7
登録商標/著作権 7

安全上のご注意 9

1 各部の名称 12
■ 前面部 12
■ 表示部 13

2 通話のしかた 14
■ 通話するときのアドバイス 14
■ 電源と音量の調整 15
■ 通話チャンネルを合わせる 16
■ 自分の音声を送信する 16
■ 相手の音声を受信する 17
■ 通話をつづける 17
■ ロック機能 18
■ 個別呼び出し 18
■ ユーザーコード 19
■ 秘話機能 20
■ そのほかの操作 21

3 各種機能の設定 22
■ 設定モードに移行するには 22
■ 設定のしかた 22
■ 設定項目一覧 23

4 Bluetooth®の使いかた 25
■ Bluetooth部の仕様 25
■ ペアリング/接続のしかた 25
■ Bluetoothの初期化 28
■ Bluetoothの設定項目一覧 29

5 ご参考に 30
■ 日常のお手入れと点検 30
■ ヒューズの交換について 30
■ 初期化(リセット)するには 30
■ 故障かな?と思ったら 31
■ アフターサービスについて 33

さくいん 34

ご利用ガイド 36

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

◎ 使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
◎ 次の「⚠危険」、「⚠警告」、「⚠注意」の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
⚠警告	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
⚠注意	これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

免責事項について

地震・雷・風水害などの天災および当社の責任以外の火災、本製品の違法な使用、お客様または第三者が取扱説明書とは異なる使用方法で本製品を使用することにより生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
人命救助などを目的とした通信に本製品を使用し、通信の途絶、故障や誤作動、電池の消耗などにより、人命に関わる事態が生じても、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

⚠危険

◎ **引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。**
引火、火災、爆発の原因になります。

⚠警告

◎ **民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。**
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。

◎ **電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。**
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

◎ **マイクロホン(別売品)のケーブルを持って、マイクロホンを振り回したり、投げたりしないでください。**
本人やほかの人に当たり、けがや故障、および破損の原因になります。

◎ **長時間使用しないときは、安全のため本製品に接続する電源を取りはずしてください。**
発熱、火災の原因になります。

安全上のご注意

◎ **指定以外のヒューズを使用しないでください。**
火災、故障の原因になります。

◎ **赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。**
感電、けがの原因になります。

◎ **次の事項を守らないと、ショートして発火の原因になります。**
- DC電源ケーブル(付属品)や接続ケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、加熱したりしないでください。
- 接続がゆるかったり、DC電源ケーブル(付属品)や接続ケーブルが傷ついたりしたときは、使用しないでください。

◎ **次の事項を守らないと、感電の原因になります。**
- 雷が鳴り出したら、機器やアンテナ線、DC電源ケーブル(付属品)には、絶対に触れないでください。
- ぬれた手でDC電源ケーブル(付属品)、または本製品に触れないでください。

◎ **次の事項を守らないと、火災、感電、故障の原因になります。**
- 指定以外の電源や電圧を使用しないでください。
- DC電源ケーブル(付属品)を接続するときは、⊕(プラス)と⊖(マイナス)の極性を間違えないように十分注意してください。
- DC電源ケーブル(付属品)のヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。
- DC電源ケーブル(付属品)にホコリが付着した状態で使用しないでください。
- DC電源ケーブル(付属品)や接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
- 指定以外のDC電源ケーブルを使用しないでください。
- 線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。
- 製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。

◎ **万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常がある場合は、使用しないでください。**
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐにDC電源ケーブル(付属品)を確実に抜いてください。原因等につきましては、煙が出なくなるのを確認してから、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

⚠注意

◎ **インバーター内蔵の電子機器やLED照明器具の周辺で使用しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎ **針金などの細い棒で、マイクジャックの穴に触れないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎ **本製品のマイクジャック部分に金属片やゴミを付着させないでください。**
ショートして発火の原因になることがあります。

◎ **長時間使用すると、後面部の温度が高くなりますので、後面部に触れないでください。また、周囲の人が後面部に触れないようにご注意ください。**
やけどすることがあります。

◎ **ぐらついた台の上や傾いたところなど、無線機を不安定な場所に置いたり、設置したりしないでください。**
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。

◎ **直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。**
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

◎ **指定以外の別売品を使用しないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎ **−20℃〜+60℃以外の環境では使用しないでください。**
使用温度範囲外でのご使用は、故障の原因になることがあります。

◎ **電気･電子機器の動作に障害を与える場合は、送信しないでください。**
テレビやラジオなどに受信障害を与えたり、ブレーカーなどの機器が誤動作したりする原因になることがあります。

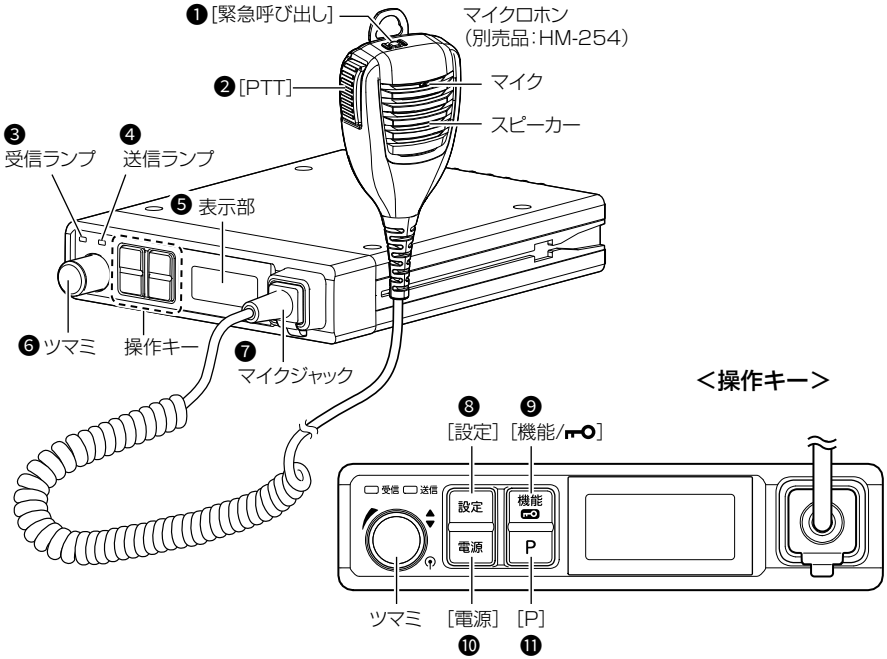
◎ **本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。**
けが、故障の原因になることがあります。

◎ **本製品の上に乗ったり、ものを置いたりしないでください。**
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。

◎ **清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。**
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

1 各部の名称

■ 前面部



❶ [緊急呼び出し](P.21)

❷ [PTT]
押しているあいだは送信状態、はなすと待ち受け状態

❸ 受信ランプ
緑色に点灯 : 受信中
橙色に点滅 : 着信設定時(P.23)

❹ 送信ランプ
赤色に点灯 : 送信中

❺ 表示部(P.13)

❻ ツマミ
◎回すと音量調整
◎ツマミを短く押してから回すと、チャンネル番号を選択

❼ マイクジャック
別売品のマイクロホン(HM-254など)を接続

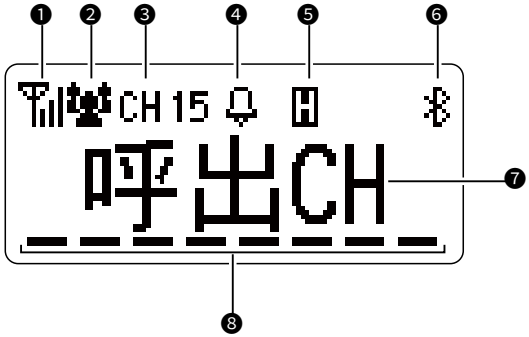
❽ [設定]
◎短押し : 通話後、強制的に終話
◎長押し : 送信出力の切り替え(P.21)

❾ [機能/🔑]
◎短押し : ユーザーコード/秘話/個別/グループ画面などの変更
◎長押し : ロック機能のON/OFF

❿ [電源]
電源のON/OFF

⓫ [P](プログラム)
◎短押し : 通話チャンネル表示に設定
◎長押し : 押しているあいだは、モニター機能が動作

■ 表示部



❶		受信している電波の強度を、3段階(目安)で表示 ※「 」は、電源が入っているときは、常に表示されます。
❷		全局呼び出し設定時
		グループ呼び出し設定時
		グループ呼び出し設定時(メンバー指定あり)
		個別呼び出し設定時
❸	CH 15	現在のチャンネル番号を表示
		自局宛ての個別呼び出しを受信したとき
		個別呼び出し機能で通話中に表示
❹		ポケットビープ機能が設定されているとき ※呼び出しを受けると、点滅します。
❺	H	送信出力表示　H:ハイパワー(5W)、 L:ローパワー(1W)、R:受信専用
❻		Bluetooth機能がONに設定されているとき
❼		音量、チャンネル番号、相手の個別番号などが表示 ※設定モードでは、選択した設定項目が表示されます。(P.22)
❽		Sメーター表示 受信している電波の強度を8段階(目安)で表示 ※「 」表示と連動

※上記以外の表示については、弊社ホームページに掲載の「取扱説明書」(PDFファイル)でご確認ください。

2 通話のしかた

■ 通話するときのアドバイス

送信時間制限

1回の送信で連続して通話できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。
制限時間の10秒前になると、「ピッ」と鳴ります。
連続通話時間が5分になると、警告音が「ブッ」と鳴って、自動的に送信を停止します。停止後、1分間は送信できません。
通話を再開する場合は、1分後に[PTT]を押してください。

混信防止(キャリアセンス)機能

無線局の運用では、自分が送信中に、ほかの人が同じ通話チャンネルで送信すると、混信を受け通話ができないことがあります。
また、ほかの人が通話中のチャンネルで送信すると、その通話を妨害することになります。
このような混信を防止するために、同じチャンネルで一定レベルの電波を本製品が受信している場合は、通話中とみなし、送信できないよう自動的に制御する機能をキャリアセンスといいます。
キャリアセンスは、本製品が送信を開始するときに動作します。
3秒以上通話が途切れた場合、本製品が通話を終了したと判断し、次の送信開始時からキャリアセンスの機能が動作します。
なお、ほかの電子機器からの電波を受信した場合(混信や妨害波を含む)についてもキャリアセンスが動作し送信できないことがありますが、故障ではありません。
本製品は、電波法によりこのキャリアセンスの搭載が義務付けられています。

電波干渉

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。
このような混信は、グループごとに通話チャンネルの組み合わせを適切に設定することで防止できます。

通話範囲

通話範囲は、周囲の建物などの状況により異なりますので、下記の数値を目安に通話してください。(送信出力:5W)

見通しのよい場所:約10km
市街地:約1～3km

※ 通話範囲であっても、山や建物などが障害物となって、通話しにくくなることがあります。
そのときは、場所を少し移動して通話してください。
また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

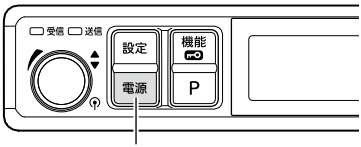
■ 電源と音量の調整

【電源の入れかた】

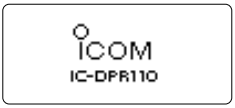
[電源]を長く(約2秒)押します。

- 「ピー」と鳴って、電源が入ります。

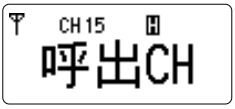
※ 電源を切るときも、同じ操作をします。



［電源］



電源投入直後



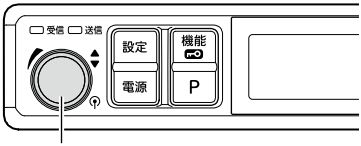
チャンネル表示

【音量調整のしかた】

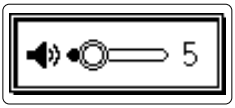
ツマミを回すと、音量が調整できます。

- 選択範囲：0(小)～32(大)

※ 初期設定では、設定モードで[P](プログラム)キーの動作を「P長 モニター」(P.23)に設定されているため、[P]を押しているあいだ、受信ランプが緑色に点灯します。
「ザー」という音が出ますので、この音を聞いて調整できます。



ツマミ

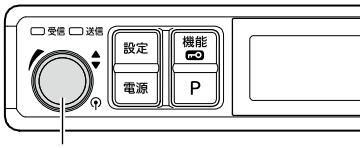


音量表示（例：5）

2 通話のしかた

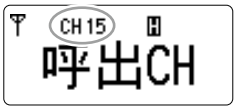
■ 通話チャンネルを合わせる

1. ツマミを短く押します。
   • 表示(例：CH15)が点滅します。
2. ツマミを回して相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
   ※ 相手と通話チャンネルが異なるときは、通話できません。
   ※ 陸上/海上で運用する場合は「CH01～CH14」、「CH15(呼出CH)」、「CH16～CH82」、上空で運用する場合は「CH S1～CH S15」★を使用してください。
   ★ 出荷時の設定では上空用チャンネル(CH S1～CH S15)を選択できません。
   必要に応じて、設定モードで運用チャンネルを変更してください。(P.24)



ツマミ

点滅



ツマミを短く押したときの表示

点滅



ツマミを回して切り替えたときのチャンネル表示（例：CH10）

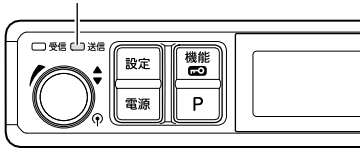
■ 自分の音声を送信する

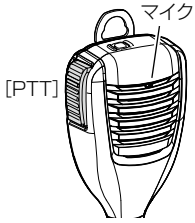
他局が通信(受信ランプが緑色に点灯)していないことを確認してから、[PTT]を押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

• [PTT]を押しているあいだは、送信ランプが赤色に点灯します。

※ [PTT]をはなすと、待ち受け状態になります。

送信ランプ





ご参考

◎マイクと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。マイクに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなります。

◎[PTT]を押したとき、「ピッ」★と鳴ったら、通話相手に呼びかけてください。

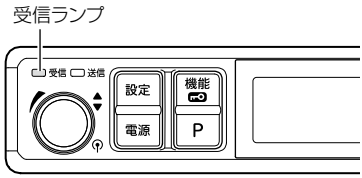
★送信モニタービープ機能「OFF」時は鳴りません。(初期設定：ON)

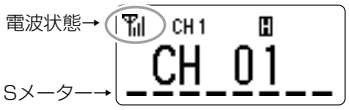
■ 相手の音声を受信する

[PTT]をはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声が聞こえます。

- 受信中は、受信ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態が表示されます。

※ 待ち受け状態のときは、送信ランプと受信ランプが消灯しています。





受信中の表示

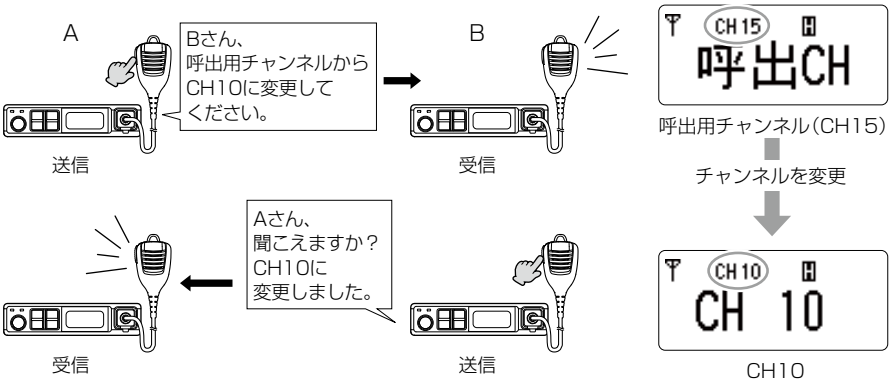
■ 通話をつづける

応答するときは、待ち受け状態（送信ランプと受信ランプが消灯）になってから、[PTT]を押します。

※ 相手が送信しているときは、[PTT]を押しても混信防止機能（P.14）が動作して、「プップッ…」と鳴りつづけ、送信できません。相手の通話が終了してから、送信してください。

※ 送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、お互いの会話がスムーズになります。

【通話チャンネルが決まっていない場合は】



呼出用チャンネル

工場出荷時や全設定初期化時、電源を入れると、呼出用チャンネル(CH15)★が表示されます。このチャンネルは一時的な呼び出しにだけ使用します。

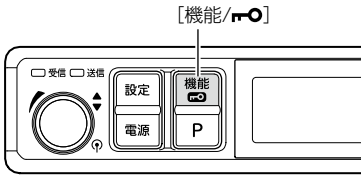
呼び出した相手と通話をつづける場合は、空いている通話チャンネル（CH01～CH14、CH16～CH82）に変更してから通話してください。

※電源を入れなおすと、前回選択した通話チャンネルが表示されます。

※ユーザーコード、秘話機能、個別呼び出し機能による通話には使用できません。

★本製品以外では、「呼出CH」や「CALL CH」と表示されるチャンネルです。

■ ロック機能



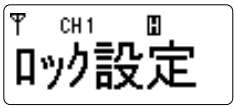
不用意に無線機のキーに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにする機能です。
[機能/⊶]を長く(約1秒)押すと、ロック機能がONになります。

※ ロック解除するときも、同じ操作をします。
※ ロック中は、キーやツマミの操作が禁止されます。

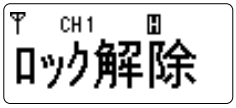
〈ロック中にできる操作〉
◎ ロック機能の解除
◎ 送信/受信の切り替え
◎ 電源のON/OFF
◎ 音量調整
◎ モニター機能★

★ モニター機能は、ロック中でも、[P]を長く押すと動作します。
モニター機能とは、音を聞きながら音量を調整するとき、またはユーザーコードが異なる他局の通話や秘話機能を使用しない他局の通話を聞くときに使用します。

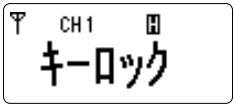
※ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)の設定が「ON」の場合は、キーロック中でも緊急呼び出しの操作ができます。



ロック機能設定時の表示



ロック機能解除時の表示

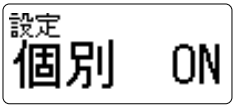


ロック中にキー操作したときの表示

■ 個別呼び出し

詳細な設定をすることで「全局呼び出し」、「個別呼び出し」、「グループ呼び出し」を構成できます。
(初期設定 : OFF)
必要に応じて、設定モードで設定してください。
(P.23)

※詳細については、取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。



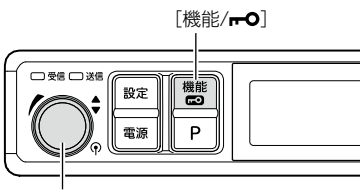
個別呼び出し機能「ON」

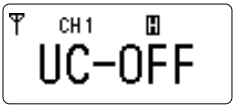
■ ユーザーコード

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、簡易的な通話グループが構成できます。通話チャンネルとユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。
※秘話機能や個別呼び出し機能と併用できます。

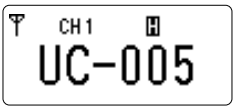
1. 相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
2. [機能/🔑]を短く押して、「UC-OFF」を選択します。
3. ツマミを回して相手と同じユーザーコードに合わせます。(例：005)
   - 選択範囲：OFF(000)、001～511

※ 表示を切り替えてから、何も操作しない状態が10秒つづくと、通話チャンネル表示に戻ります。
※ 「UC-OFF」の場合、ユーザーコードを使用して通話する相手の音声は聞こえますが、自分の音声は、ユーザーコードを設定している相手には聞こえません。





ユーザーコード設定画面の表示
(例：UC-OFF)

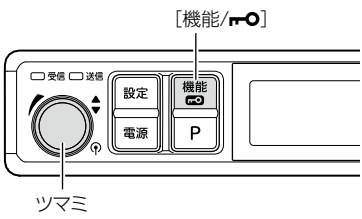


ユーザーコード変更中の表示
(例：UC-005)

■ 秘話機能

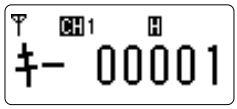
秘話機能を設定すると、通話内容が傍受されるのを防止できます。通話チャンネルと秘話キーが一致したすべての相手と通話できます。

1. 相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
2. [機能/🔑]を数回短く押して、「秘話 OFF」を選択します。
3. ツマミを回して「秘話 ON」を選択します。
4. ツマミを長く(約1秒)押します。
   • 秘話キー画面が表示されます。
   ※ 秘話キー画面で、ツマミを回して、秘話キーを変更することもできます。
5. さらにツマミを長く(約1秒)押したあと、[機能/🔑]、または[P]を短く押して、編集する桁を選択します。
   • 秘話キー編集画面に切り替わります。
6. ツマミを回して相手と同じ秘話キー(5桁)に合わせます。(例:00001)
   ※ 設定範囲は、「00001 ~ 32767」です。
7. ツマミを長く押します。
   •「秘話 ON」画面に戻り、確定します。
   ※ 数秒後、通話チャンネル画面に戻ります。

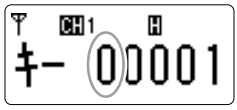




秘話機能「ON」



秘話キー画面



編集中の桁が点滅

秘話キー編集画面
秘話キー設定中(00001)

ご参考
コマンドマイク(別売:HM-253)接続時は、無線機本体のキー操作が下記だけに制限されます。
◎[機能/🔑]長押しによるキーロック操作
◎[電源]長押しによる電源のON/OFF
◎[P]短押し/長押し操作
コマンドマイクでの操作方法については、弊社ホームページに掲載の「取扱説明書」(PDFファイル)をご覧ください。

■ そのほかの操作

【送信出力の切り替え】

[設定]を長く(約1秒)押すごとに、送信出力(5W/1W)が切り替わります。

※ 通話相手との距離に応じて、1Wに切り替えると、消費電力を節約できます。

※ 1W設定時は、表示部に「L」(Low)が表示されます。



ハイパワー切り替え時の表示



ローパワー切り替え時の表示

【サブチャンネルPTT機能】

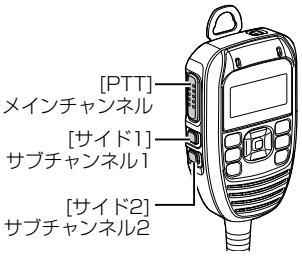
別売品のコマンドマイク(HM-253)使用時、側面の[サイド1]/[サイド2]にサブチャンネルを割り当てることで、チャンネル切り替え操作をせずに、最大3CH間で送受信ができます。

(初期設定 : OFF)

必要に応じて、設定モードでサブチャンネルPTT機能を設定してください。

※ サブチャンネルPTT機能設定時、設定できない機能や[サイド1]、[サイド2]に割り当てて使用できない機能があります。

※詳細については、取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。



【緊急呼び出し機能】

個別呼び出し機能による通話で、迅速な連絡が必要な場合、自分と同じ通話チャンネルで緊急呼び出し機能が設定された相手に、緊急表示と警告音で通知できます。(初期設定 : OFF)

※詳細については、取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。



緊急呼び出し中の表示

3 各種機能の設定

運用状況に応じて、設定モードからお好みの設定に変更できます。

■ 設定モードに移行するには

1. 本製品の電源を切った状態で、[P]を押しながら、[電源]を押しつづけます。
2. 「設定」が表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
   • 設定項目が表示されます。
   ※設定モードを解除するまで通話できません。



設定モード移行時の表示

■ 設定のしかた

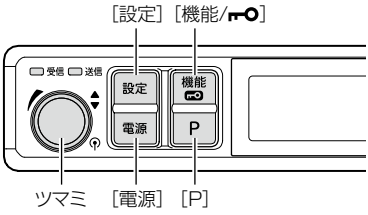
設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

1. [機能/🔑]、または[P]を繰り返し短く押して、設定項目を選択します。
   (例：スピーカー出力)
2. ツマミを回します。
   • 設定が切り替わります。(例：全て)
   ※ほかの機能も変更するときは、手順1、2の操作を繰り返します。
3. [PTT]を押します。
   • 選択した設定が確定し、設定モードが解除され、チャンネル表示に戻ります。
   ※設定値を変更後に、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。



スピーカー出力「自動」

スピーカー出力「全て」



■ 設定項目一覧

工場出荷時や全設定初期化時に表示される設定項目と初期設定です。

設定項目	画面表示	初期設定	説明
着信表示	設定 着信	OFF	個別呼び出しを受けたとき、受信ランプの点滅(橙色)表示で着信を通知する機能を設定します。
ポケットビープ	設定 Pビープ	OFF	ユーザーコード、個別呼び出しによる呼び出しを受けたときの通知音を設定します。
送信モニタービープ	ビープ 送信	ON	[PTT]を押したときのビープ音を設定します。
終話ビープ	ビープ 終話	ON	通話相手の終話信号を受信したとき、ビープ音で通知するかを設定します。
ビープ音量	設定 音量	連動	ポケットビープやキー操作などの音量を、無線機本体の音量と連動するかどうかを設定します。
ユーザーコード	設定 UC	共通	通話チャンネルごとに設定されたユーザーコードを使用するか、すべての通話チャンネルに共通で使用するかを設定します。
秘話機能	設定 秘話	通常	通常の秘話機能、拡張秘話機能のどちらを通話時に使用するかを選択します。
秘話設定	設定 秘話	共通	通話チャンネルごとに設定された秘話機能を使用するか、すべての通話チャンネルに共通で使用するかを設定します。
チャンネル音声案内	設定 案内	ON	メモリーチャンネル番号を読み上げる機能を設定します。
マイクゲイン	マイク ゲイン	0	マイク感度を設定します。
ノイズキャンセル	ノイズキャンセル機能	OFF	通話音声からノイズ成分を取り除き、音声品質を向上させるノイズキャンセル機能を設定します。
送信イコライザー	イコライザー 送信	OFF	送信時の音質を強調した音質に変更する送信イコライザー機能について設定します。
受信イコライザー	イコライザー 受信	OFF	受信時の音質を強調した音質に変更する受信イコライザー機能について設定します。
VOX機能	設定 VOX	OFF	マイクからの音声によって、送信と受信を自動的に切り替える機能を設定します。
個別呼出	設定 個別	OFF	特定の相手やグループなど個別の相手だけを呼び出す機能の設定です。
エマージェンシー機能	設定 緊急	OFF	緊急呼び出し(エマージェンシー)機能の使用について設定します。
キーロック時音量操作	キーロック 音量	有効	ロック機能動作中の音量調整について設定します。
オートキーロック	キーロック 自動	OFF	一定時間、キーやツマミが操作されないとき、操作が自動的にキーロックされるまでの時間を設定します。
Pキー短押し	設定 P短	ホーム	[P]を短く押したときの動作を設定します。
Pキー長押し	設定 P長	モニター	[P]を長く押したときの動作を設定します。

3　各種機能の設定

■設定項目一覧

設定項目	画面表示	初期設定	説明
プライベートCH機能	設定 PvCH	ON	プライベートチャンネル機能を設定します。
プライベートCH	設定 PvCH	呼出	プライベートチャンネルを設定します。
スピーカー出力	設定 SP	自動	初期設定では、外部スピーカーを接続したときは、マイクロホンのスピーカーから音を出力しません。両方から出力するときは「全て」を設定してください。
キャリアスケルチ	設定 CSQL	OFF	キャリアスケルチ機能を設定します。
Sメータ表示	設定 Sメータ	ON	Sメーター（受信信号強度）表示について設定します。
上空CH★1	設定 上空	OFF	上空用チャンネル（S1～S15）の使用を設定します。
バックライト	設定 ライト	ON	表示部のバックライト状態を設定します。
本体コントラスト	設定 LCD	12	無線機（表示部）のコントラスト（濃淡）を調整します。
本体表示輝度	設定 輝度	3	無線機（表示部）と各キーの照明の明るさを設定します。
GPS★2	GPS 機能	OFF	GPS機能を設定します。
Bluetooth機能	Bluetooth 機能	OFF	Bluetoothヘッドセットと無線機のBluetooth接続（ペアリング）について設定します。（P.29）
ユーザーリセット	設定 リセット	― ― ―	「実行」を選択して、[PTT]を押すと、無線機のすべての設定を工場出荷時の状態に戻します。
サイド1キー短押し★3	サイド1キー短押し	無効	[サイド1]や[サイド2]を短く押したときに動作する機能を設定します。
サイド2キー短押し★3	サイド2キー短押し	無効	
サイド1キー長押し★3	サイド1キー長押し	無効	[サイド1]や[サイド2]を長く押したときに動作する機能を設定します。
サイド2キー長押し★3	サイド2キー長押し	無効	
録音再生機能★3	録音再生機能	OFF	自局宛の通話を録音、および再生する機能を設定します。
マイクコントラスト★3	マイクコントラスト	9	コマンドマイクのコントラスト（濃淡）を調整します。
マイク表示輝度★3	マイク表示輝度	5	コマンドマイクの表示部と各キーの照明の明るさを設定します。

★1 下記の条件では上空用チャンネルを「OFF」に設定できません。
◎上空用チャンネルだけ有効の場合
◎プライベートチャンネルに上空用チャンネルが設定されている場合
※チャンネルの有効/無効については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

★2 外部機器接続ケーブルが装着されている無線機で表示される項目です。

★3 無線機にコマンドマイク（別売品：HM-253）を接続すると、表示される項目です。
※コマンドマイク接続時の表示順は上記と異なります。詳細については、弊社ホームページに掲載の「取扱説明書」（PDFファイル）でご確認ください。

Bluetooth®の使いかた

◎本製品のBluetooth機能を有効にすると、Bluetooth対応機器と接続できます。
※この機能を使用する場合は、設定モードでの設定が必要です。(P.22)
◎Bluetoothの通信範囲は、約10m(目安)です。
◎本製品は、最大8台(ヘッドセット7台、データ端末1台)までのBluetooth機器を登録できますが、本製品とBluetooth機器を1対1の組み合わせで設定されることをおすすめします。

Bluetoothの通信においては、Bluetooth機器と本製品の距離をできるだけ近づけ、障害物がない状態にしてください。
電子レンジや無線LAN、ほかのBluetooth機器による電波干渉がある場合は、それらの位置を変更するか、必要に応じて一時的に使用を中止してください。

■ Bluetooth部の仕様

◎適応規格　　:Bluetooth Ver. 5.3準拠
◎送信出力　　:Class1
◎対応プロファイル　:HFP (Ver.1.8)、HSP (Ver.1.2)、SPP (Ver.1.2)

■ ペアリング/接続のしかた

ペアリング(接続の認証)とは、Bluetooth機器をお互いに登録し、接続を許可するためのものです。
一度ペアリングしたBluetooth機器とは、それ以降ペアリングする必要はありません。
本体側の電源をONにするとBluetooth機器と接続され、OFFにすると切断されます。

ご注意
◎ 本製品と接続する機器は、Bluetooth SIGの定めるBluetooth標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。
また、Bluetooth標準規格に適合していても、機器の仕様や設定により、本製品と接続できないことがあり、すべての動作を保証するものではありません。
◎ 複数のBluetooth機器がある場所では、ペアリングしたいBluetooth機器が検出されないことがあります。
このような場合は、必要なBluetooth機器だけになるように、使用しないBluetooth機器の使用を停止、またはほかのBluetooth機器からはなれるなどしてください。
◎ 電源を切るなどして、Bluetooth接続を切断した場合は、無線機本体と接続されたマイクロホンのスピーカーから音が出るように切り替わります。無線機本体側の音量の上げすぎにご注意ください。

4 Bluetooth®の使いかた

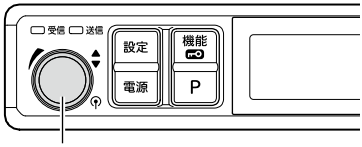
■ペアリング/接続のしかた

1. ペアリングモードにする

ペアリングモードの操作のしかたは、お使いのヘッドセットの取扱説明書でご確認ください。

2. Bluetooth機能をONにする

1. 本製品の電源を切った状態で、[P]を押しながら、[電源]を押しつづけます。
2. 「設定」が表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
   • 設定項目が表示されます。
3. [機能/⊶]、または[P]を繰り返し短く押して、「Bluetooth機能」を選択します。
4. ツマミを回して、「ON」にします。
   •「ᛒ」(Bluetooth機能ON)が表示されます。
5. 設定モードのまま、次の手順「3.本製品からBluetooth機器をペアリングする」を操作します。



ツマミ



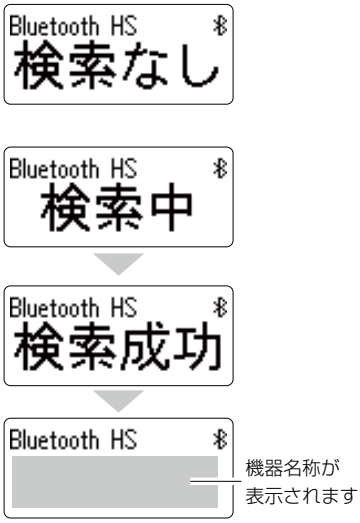
Bluetooth 機能「ON」

3. 本製品からBluetooth機器をペアリングする

1. [機能/🔗]、または[P]を押して、「Bluetooth HS 検索なし」を選択します。
2. ツマミを短く押します。
   - 「検索中」が表示されます。
   - 「検索成功」が表示され、約1秒後に検索結果が表示されます。

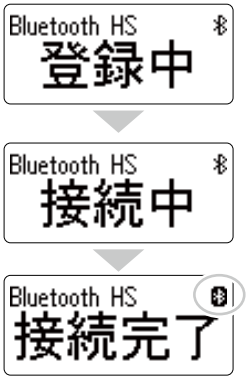
   ※「検索失敗」が表示された場合は、Bluetooth機器がペアリングモードになっているか確認して、もう一度、検索してください。

   ※ 再度検索したい場合は、ツマミを回して、「再検索」を選択し、ツマミを短く押してもう一度、検索してください。



3. ツマミを短く押し、接続する機器を選択します。
   - 「登録中」、「接続中」、「接続完了」の順に表示されます。
   - 「🔵」(Bluetooth機能 接続中)が表示されます。

   ※「ペアリング失敗」が表示された場合は、Bluetooth機器がペアリングモードになっているか確認して、もう一度、手順3のツマミを回して接続機器の選択から操作してください。
4. [PTT]を押します。
   - 設定モードが解除され、チャンネル表示に戻ります。



【ペアリング後の動作について】

一度ペアリングしたBluetooth機器とは、それ以降ペアリングする必要はありません。
下記の条件を満たしている場合、自動で接続します。
◎無線機のBluetooth機能が「ON」
◎無線機が待受状態
◎Bluetooth機器の電源が「ON」
※接続中は「🔵」が点滅します。
接続が完了すると「🔵」が点灯します。

4 Bluetooth®の使いかた

■ Bluetoothの初期化

正しく動作しないと思われた場合は、下記の手順で本製品のBluetoothの初期化をしてください。

1. 本製品の電源を切った状態で、[P]を押しながら、[電源]を押しつづけます。
2. 「設定」が表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
   • 設定項目が表示されます。
   ※ 設定モードを解除するまで通話できません。
3. [機能/🔑]、または[P]を押して、「Bluetooth リセット」を選択します。
4. ツマミを回して、「リセット 実行」を選択します。



Bluetooth 機能
「リセット 実行」選択時

5. ツマミを短く押します。
   • 「リセット中」、「リセット完了」が表示され、初期化が実行されます。
   • 「Bluetooth 機能 OFF」表示に戻ると初期化完了です。
   ※ ツマミを押さずに電源を切った場合は、Bluetooth機器の情報は初期化されません。



■ Bluetoothの設定項目一覧

設定モードでBluetooth機能を有効にすると、関連する設定項目が表示されます。

設定項目	画面表示	初期設定	説明
ヘッドセット検索	Bluetooth HS 検索	なし	Bluetooth機能対応のヘッドセットを検索し、ペアリングします。
データ端末検索	Bluetooth DT 検索	なし	Bluetooth機能対応のデータ端末を検索し、ペアリングします。
機器一覧	ペアリング 機器	なし	ペアリング済み機器一覧が表示されます。
機器解除	解除 機器	なし	Bluetooth機器をペアリング済み機器一覧から削除します。
ボリューム連動	Bluetooth 音量	連動	接続しているBluetooth機器の音量を、本製品と連動させるか固定させるかを設定します。
音量ボリューム	Bluetooth 音量	32	「Bluetooth ボリューム連動」を「固定」に設定されたときの音量(1～32)を設定します。
パワーセーブ	Bluetooth セーブ	OFF	接続しているBluetooth機器のパワーセーブ機能を設定します。
ワンタッチPTT	Bluetooth ワンタッチ	OFF	Bluetooth機器の[PTT]を短く押すごとに送信と受信を切り替える機能を設定します。
PTT&マイク切り替え	Bluetoothマイク	HS+本体	Bluetooth接続時、無線機や別売品の外部機器のPTT操作とマイクを制限するときに設定します。 ※初期設定の「HS+本体」では、Bluetoothヘッドセット、および別売品のPTT操作とマイクを有効にします。
AF出力切り替え	Bluetooth AF	HS	Bluetooth接続時、無線機や別売品の外部機器のスピーカーを制限するときに設定します。 ※初期設定の「HS」では、Bluetooth機器のイヤホンだけを使用します。
マイクレベルオフセット	Bluetooth MCLV	0	Bluetoothマイクロホンの感度(−13～+15)を設定します。
AFレベルオフセット	Bluetooth AFLV	+8	Bluetooth機器の音量(0～+12)を設定します。
データ通信	Bluetooth データ	OFF	Bluetooth接続によるデータ通信を使用するかどうかを設定します
Bluetooth 初期化	Bluetooth リセット	― ― ―	「実行」を選択して、ツマミを短く押すと、Bluetoothの全設定を初期化します。

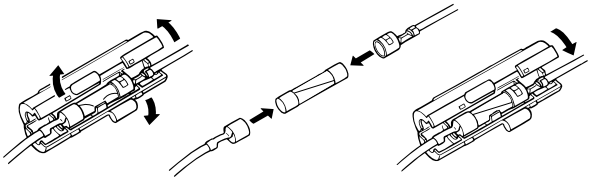
5 ご参考に

■ 日常のお手入れと点検

◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
◎定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。
◎音量が最小に調整されていないか、ツマミを回して、表示部で音量を確認してください。
◎車載でご使用になるときは、アンテナが確実に固定されていることを点検してください。

■ ヒューズの交換について

DC電源ケーブル(付属品)には、2本のヒューズ(125V/5A)が使用されています。
※ヒューズが切れて動作しなくなったときは、原因を取り除いてから新しいヒューズと交換してください。



■ 初期化(リセット)するには

下記の操作で、すべての設定が工場出荷時の状態になります。

1. 無線機の電源を切った状態で、[P]を押しながら[電源]を押しつづけます。
2. 「設定」が表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
   • 設定項目が表示されていれば、設定モードに移行しています。
3. [機能/⊓O]、または[P]を押して、「リセット ---」を選択します。
4. ツマミを回して、「リセット 実行」を選択します。
5. [PTT]を短く押します。
   • 設定値がリセットされ、無線機が再起動します。

■ 故障かな？と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。(P.33)

現　象	原　因	処　置	参照
電源が入らない	接続端子の接触不良	バッテリー、または卓上電源装置(別売品：PS-230A)との接続を確認する	—
	DC電源ケーブル(付属品)のヒューズが切れている	原因を取り除いたあとで、新品のヒューズと交換する	P.30
スピーカーやイヤホンから音が聞こえない	音量が最小に設定されている	ツマミを回して、無線機本体の音量を確認する	P.15
	外部スピーカーの設定が正しくない	設定モードで、「スピーカー出力」の設定を確認する	P.24
	マイクロホンや外部スピーカー端子の接触不良、または接続されていない	防水スピーカーマイクロホン、または外部スピーカーが正常に接続されてるか、ケーブルが断線していないかを点検する	—
送信できない(プップッ…が鳴る)	5分間の送信時間制限が過ぎているとき	1分以上待ってから、もう一度送信する	P.14
	ほかの無線機が送信しているため、混信防止機能が動作している	受信ランプが消灯してから送信する	P.14
	上空用チャンネルになっている	CH01～CH82に移動する	P.16
通話できない	通話チャンネルが合っていない	相手と同じ通話チャンネルに合わせる	P.16
	ユーザーコードの設定が正しくない	相手と同じユーザーコードを設定する	P.19
	相手が秘話機能を使用していない、または自分と秘話キーの設定が異なる	相手の秘話機能と秘話キーの設定を確認する	P.20
	自分が秘話機能を使用していない		
	相手の個別番号、またはグループ番号を間違えている	相手の個別番号、またはグループ番号を確認する	—
相手から応答がない	相手との距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	—

5 ご参考に

■故障かな？と思ったら

現　象	原　因	処　置	参照
通話チャンネル選択と送信出力切り替え以外の設定ができない	呼出用チャンネル(呼出CH)を設定している	通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH82)に変更する	P.16
「キーロック」と表示される	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P.18
モニター機能が使用できない	モニター機能を[P]で動作するように設定していない	設定モードで、Pキー長押し動作を「モニター」に設定する	P.23
スキャン機能が使用できない	スキャン機能を[P]で動作するように設定していない	設定モードで、Pキー短押し、またはPキー長押し動作を「スキャン」に設定する	P.23
ペアリングできない	ペアリングモードになっていない	ペアリングモードにする	P.25
	周辺にBluetooth対応機器が複数稼働している	ほかのBluetooth対応機器を停止させる	—
		ほかのBluetooth対応機器のない場所に移動する	—
	周辺の無線LAN機器、または電子機器が妨害している	ほかのワイヤレス通信を停止させたり、周辺機器との距離をはなしたりする	—

■ アフターサービスについて

「故障かな？と思ったら」(P.31)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

- **保証書について**

  保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- **弊社製品のお問い合わせ先について**

  お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

  お問い合わせ先

  アイコム株式会社　サポートセンター

  0120-156-313(フリーダイヤル)

  ◆ 携帯電話・公衆電話からのご利用は、

  06-6792-4949(通話料がかかります)

  受付(平日 9:00～17:00)

  電子メール：support_center@icom.co.jp

  アイコムホームページ：https://www.icom.co.jp/

さくいん

B

Bluetooth
- Bluetooth機能 …… 24
- アイコン …… 13
- 初期化 …… 28
- 対応プロファイル …… 25

C

CH15 …… 17

G

GPS …… 24

I

IP表記 …… 6

P

[P] …… 12
[PTT] …… 12

S

Sメーター表示 …… 13

V

VOX機能 …… 23

い

イコライザー…… 23

え

エマージェンシー…… 23

お

オートキーロック…… 23
お手入れと点検…… 30
音量…… 15

き

キャリアスケルチ…… 24
キャリアセンス…… 14
緊急呼び出し…… 12、21

こ

個別呼び出し…… 18
コマンドマイク…… 21
混信防止機能…… 14

さ

サイド1キー …… 24
サイド2キー …… 24
サブチャンネルPTT …… 21

し

受信する…… 17
受信ランプ…… 12
上空CH …… 24
上空用チャンネル…… 4
初期化…… 30

す

スピーカー出力…… 24

せ

[設定]…… 12
設定モード…… 22

そ

送信時間制限…… 14
送信出力…… 13
送信出力の切り替え…… 21
送信する…… 16
送信ランプ…… 12

ち

着信表示…… 23
チャンネル番号…… 13

つ

通話範囲…… 14

て

[電源]…… 12
電源…… 15
電磁波ノイズ…… 5
電波干渉…… 14

と

問い合わせ先…… 33

の

ノイズキャンセル…… 23

は

バックライト…… 24

ひ

ヒューズの交換…… 30
秘話機能…… 20

ふ

付属品…… 3
[P](プログラム)…… 12

へ

ペアリング…… 25

ほ

ポケットビープ…… 23
ポケットビープ機能…… 13

ま

マイクゲイン…… 23
マイクコントラスト…… 24
マイクジャック…… 12

ゆ

ユーザーコード…… 19

よ

呼出用チャンネル…… 17

り

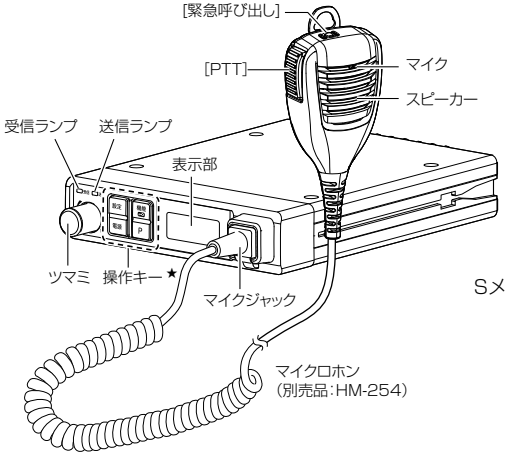
リセット…… 30

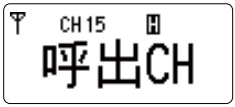
ろ

ロック機能…… 18

ご利用ガイド

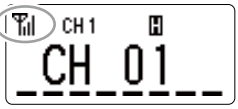
各部の名称





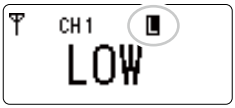
呼出用チャンネル

電波状態



Sメーター→

受信中の表示例



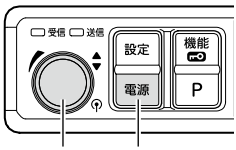
ローパワー切り替え時の表示

★[設定]を長く押すごとに、送信出力(5W/1W)が切り替わります。
[機能/🔒]を長く(約1秒)押すごとに、ロック機能がON/OFFします。

基本操作

1. 電源を入れる

[電源]を長く(約2秒)押すと、電源が入ります。



ツマミ　[電源]

2. 通話チャンネルを合わせる

1.ツマミを短く押すと、チャンネル表示が点滅します。
2.ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。(例:CH10)

3. [PTT]を押しながら自分の声を送信する

他局が通信(受信ランプが緑色に点灯)していないことを確認してから、[PTT]を押しながら、マイクに向かって呼びかけます。

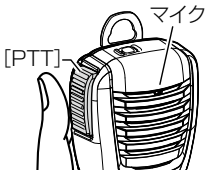


4. [PTT]をはなして、相手の音声を受信する

信号を受信すると、受信ランプが緑色に点灯して、受信している電波の強さ(目安)が3段階で表示されます。

5. 通話をつづける

応答するときは、待受状態(送信ランプと受信ランプが消灯)になってから、[PTT]を押します。
※送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。



工場出荷時や全設定初期化時、電源を入れると、呼出用チャンネルの「呼出CH」★が表示されます。
このチャンネルは一時的な呼び出しにだけ使用しますので、呼び出した相手と通話をつづける場合は、空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH82)に変更してから通話してください。
★本製品以外では、「CALL CH」や「CH15」と表示されるチャンネルです。

設定モードによる機能設定

運用状況に応じて、設定モードからお好みの設定に変更できます。

設定モードに移行するときは

1. 本製品の電源を切ります。
2. [P]を押しながら、[電源]を押しつづけます。
3. 「設定」が表示され、「ピピッ」と鳴ったら、
   すべてのキーから手をはなします。
   • 設定項目が表示されます。



設定モード移行時の表示

設定内容を変更するときは

1. [機能/🔑]、または[P]を押して、設定項目を選選択します。
2. ツマミを回して、設定を変更します。
   ※ほかの機能も変更するときは、手順1と2の操作を繰り返します。
3. [PTT]を押すと、設定が確定されて、
   運用できる状態になります。
   ※設定項目を変更後、電源を切ると、設定値が確定されます。
   ※設定モードを解除するまで通話できません。



スピーカー出力「自動」

スピーカー出力「全て」

このガイドは、本製品をはじめてお使いになるかたの手元に登録状が届いたあと、すぐに通話を開始するための手順として、基本的な操作をまとめたものです。
ご利用になる目的やエリアに応じて、ユーザーコード、秘話機能、個別呼び出し、サブチャンネルPTTなどの機能もご使用ください。（取扱説明書（PDFファイル）参照）

MEMO

Radio Communication Solutions
株式会社ジャパンエニックス
JAPAN ENIX CO.,LTD.

□ 東京本社 03-5715-2351
□ 関西支店 06-6583-7700
□ 名古屋営業所 052-908-1440
□ 九州営業所 092-432-9077
□ 札幌営業所 011-733-6120
□ 仙台営業所 022-290-9381

◀各住所は
こちらから

https://www.jenix.co.jp/

ICOM

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32

A7896H-1J
Printed in Japan
© 2026 Icom Inc.
202609